

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST.(2007)82(2)

May 2007

GSJ コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

大会ニュース (その三) **日本遺伝学会第79回大会案内**

International Meeting

“Gene Expression Control and Genome Evolution”

日本遺伝学会 2007年度第1回幹事会報告

日本遺伝学会 2007年度第1回評議員会報告

会長からのメッセージ

各幹事の報告と自己紹介

各種助成金・賞 申請結果

*会員異動

*寄贈図書・交換図書

*その他のお知らせ

GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>



目 次

頁

大会ニュース（その三） 日本遺伝学会第79回大会案内	3
International Meeting “Gene Expression Control and Genome Evolution”	9
本 会 記 事	
日本遺伝学会 2007年度第1回幹事会報告	11
日本遺伝学会 2007年度第1回評議員会報告	12
会長からのメッセージ	14
各幹事の報告と自己紹介	15
各種助成金・賞 申請結果	18
会員異動	18
寄贈図書・交換図書	19
その他のお知らせ	
戦略的創造研究推進事業（CREST タイプ，さががけタイプ）	
平成19年度研究提案の募集開始	8
国立遺伝学研究所 大学院説明会	13
バイオインダストリー協会賞 平成19年度授賞候補者推薦募集	20

日本遺伝学会第79回大会案内

2007年の第79回大会は、岡山大学理学部・創立50周年記念館を会場に、下記のような企画で準備を進めています。多くの方々の参加をお待ちしております。

大会ホームページ (<http://www.okayama-u.ac.jp/user/iden79/>) では、より詳細な最新の情報をご覧いただけます。企業展示についての詳細は大会ホームページに掲載予定です。

第79回大会では学生の参加を歓迎するため、演者として事前登録した学生会員の参加費は無料とし、旅費の一部援助も行います。また、優れた発表はBP賞として表彰いたします。

1. 会 場：岡山大学理学部・創立50周年記念館（岡山市津島中3-1-1）

2. 会 期：2007年 9月19日(水)・20日(木)・21日(金)
なお、市民公開講座を 9月22日(土)午後に予定しています（後述）。

3. 企 画

(1) 一般講演（9月19日午前中、20日午前中、21日午前中）

講演時間は1題につき15分（質問時間を含む）を予定しています。PCによる発表のみのため、USBフラッシュメモリあるいはCD-ROMにデータを保存してお持ち下さい。

(2) 特別講演

講演予定者：

第1日（9月20日、午後1時～3時5分）

Jonathan Hodgkin; <http://www.bioch.ox.ac.uk/genetics/Hodgkin/hodgkin.html>

Steven Henikoff; <http://www.hhmi.org/research/investigators/henikoff.html>

Robert Waterston; <http://www.gs.washington.edu/faculty/waterston.htm>

第2日（9月21日、午後1時30分～2時10分）

Nam-Hai Chua; <http://www.rockefeller.edu/research/abstract.php?id=22>

(3) ミニシンポジウム（9月19日午後1時～6時50分、21日午後2時20分～4時10分）

ミニシンポジウムは以下の9テーマを予定しています。これまでの大会ニュース等でお知らせしましたように、ミニシンポジウムでは、世話人により準備された講演者の発表に加えて、一般講演からの参加も募集しています（若干名）。一般講演で申し込まれた演題を発表しても良いと思われる方は、一般講演申し込みの際に、該当するテーマを演題申し込み画面にて1つ選択してご応募ください。応募演題がミニシンポジウムで発表されることになった場合、その演題での一般講演の発表はありませんのでご注意ください。ミニシンポジウムのみの発表希望は受け付けていません。一般講演として申し込みがあったものから決めさせていただきますのでご了承ください。なお、ミニシンポジウムにおける発表の可否については、ミニシンポジウム世話人にご一任いただきます。

タイトルとオーガナイザーは以下の通りです。

第1日（9月19日、午後1時～2時50分）

1) テー マ：植物のペプチドホルモンの分子遺伝学

世 話 人：福田裕穂、平野博之（東大）

講演予定者：坂神洋次、川口正代司、高橋秀樹、柿本辰男、中村保一、福田裕穂、平野博之

最近植物において、メリステムの維持制御、気孔の分化、微生物との相互作用など、いろいろな生物学的・遺伝学的な局面で、ペプチド性のホルモンが重要な働きをしていることが判明しつつある。本シンポジウムでは、植物の分子発生遺伝学や生化学の分野で、世界の第

一線で活躍している方々にお集まりいただき、植物のペプチドホルモンやその受容体について、最前線的话题を提供したいいただくことを目的としている。

2) テーマ：相同 DNA 組換えの基本機構と高等生物ゲノム再構築への展望

世話人：飯田 滋（基生研）柴田武彦（理研）土岐精一（農生資源研）

講演予定者：遠藤真咲，定塚（久富）恵世，太田邦史，武田俊一，柴田武彦

近年，相同 DNA 組換えの，真核生物に普遍的な基本機構とその制御の概要が，分子レベルや遺伝子レベルでの研究を基礎に明らかになり，その人為的な制御まで可能になってきた。一方，相同 DNA 組換えによる効率的なゲノム情報構築機能が生体系や試験管内系で実験的に実証されつつある。この背景で，相同 DNA 組換え研究の現状と近い将来での高等動植物での標的組換えによる高速育種技術の実現への展望を議論する。

第1日（9月19日，午後3時～4時50分）

3) テーマ：「プログラム死：単細胞微生物での機構と意義」

世話人：杓掛和弘（岡山大），小林一三（東大）

講演予定者：小林一三，山田守，鎌田勝彦，杓掛和弘，原 弘志

「死」は「生」でない状態として消極的に扱われてきた。しかし，多細胞生物で「プログラム細胞死」経路が分子レベルで解明され，その様々な生命活動での重要性が認識されている。個体レベルでは，「利他的な」死をプログラムする事によって存続する遺伝子という概念が提唱されたが，その実体は明らかになっていない。「個体」＝「細胞」の単細胞モデル微生物では，死のゲノム維持，ストレス応答，感染防御，分化等での役割と，分子機構とを徹底的に解明・検証できる可能性がある。最先端の研究を紹介したい。

4) テーマ：染色体の複製機構とゲノムの安定性

世話人：真木寿治（奈良先端大），小林武彦（遺伝研）

講演予定者：荒木弘之，小林武彦，片山 勉，真木寿治

染色体の複製，分配が正確に行われることは生物にとって必須事項である。特に複製の開始及び進行のプロセスは，多くの因子が関与する複雑な反応であり，その制御は緻密である。複製制御機構の異常はゲノムの安定性を低下させ，細胞周期の停止や老化，あるいはアポトーシス，癌化等の原因となる。本ミニシンポジウムでは染色体の複製機構，及びその制御不全によって引き起こされる現象について，最新の知見を元に議論する。

第1日（9月19日，午後5時～6時50分）

5) テーマ：分子進化の中立説：これまでの40年とこれから

世話人：宮下直彦（京都大学），高橋 亮（理化学研究所）

講演予定者：太田朋子，高畑尚之，田嶋文生，高野敏行

提唱以来40年，分子進化の中立説は，集団内変異の維持機構や，多様な生物の進化機構を探究する上での理論的な枠組みを与えてきた。その一方，近年の大規模なDNA多型研究の進展に伴い，中立説に基づく理論予測とは合致しない変異パターンが自然集団中に頻繁に存在することも広く認識されつつある。本集会では，これまで集団遺伝学，分子進化研究の発展を担ってきた研究者による講演を基に，中立説が果たした役割を振り返り，その今後を展望する。

6) テーマ：RNA干渉（RNAi）による遺伝子サイレンシング

世話人：黒田行昭，上田 龍（遺伝研）

講演予定者：程 久美子，西原祥子，塩見喜美子，島本 功

生物のあらゆる形質（形態・機能・運動など）は，遺伝子によって支配される。このため，生物に放射線や化学物質を作用させて遺伝子に突然変異を起こさせ，その変異した形質を支配する遺伝子の染色体上の座位の解析やその遺伝子DNAの塩基配列，またその発現調節機

構などの解析が行われてきた。ヒトをはじめ多くの生物のゲノム全塩基配列が明らかになり、多くの生物に共通する塩基配列も判明して、まず遺伝子発現を阻害することによって逆にその遺伝子が支配する形質を明らかにする逆遺伝学の手法が使用されるようになった。ここでは、最近注目される RNA 干渉 (RNAi) を用いた遺伝子機能の研究とともに小分子 RNA が果たす遺伝子発現調節機構の研究についても論議する。

7) テーマ：高校“生物”で遺伝をどう教えるか

世話人：池内達郎（東京医科歯科大学）、向井康比己（大阪教育大）

講演予定者：向井康比己、池村淑道、高校現場の教師、池内達郎

今世紀はゲノムの時代といわれるが、我が国の学校教育における生物教科の内容は極端に遅れている。遺伝子/DNAとは何か、突然変異とは？、そしてヒトの生物学としての身近な“遺伝学”，などが教えられていない。昨年の大会で開いたワークショップ「高校での遺伝教育を考える」は、会員外の一般市民（とくに高校生物教師）も多数参加し盛会であった。今年はさらに一歩進めて、現代社会のニーズに対応した遺伝教育とはどうあるべきか、を基本に、現行教育内容の大幅な再構築に向けて、現実的な具体案を提示したい。学問の成果がその世界に留まらず人々の社会生活にも大きく影響する時代である。専門家集団である学会側は、社会との接点となるアウトリーチ活動に費やす時間と労力を惜しんではならないと考える。

第3日（9月21日、午後2時20分～4時10分）

8) テーマ：藻類：分子遺伝学の新しいモデル実験系

世話人：高橋裕一郎（岡山大）、福澤秀哉（京大）、石浦正寛（名大）

講演予定者：高橋裕一郎、福澤秀哉、松尾拓也（名大）

藍色細菌とコケや高等植物とをつなぐ進化上重要な植物である藻類は、ゲノム配列が決定されたり、遺伝子操作の道具が整備されたりして、近年大変魅力的な分子遺伝学の新しいモデル実験系となりつつある。本ミニシンポジウムでは、クラミドモナスを中心に他の藻類を加えて日本の最先端の研究を紹介し、分子遺伝学分野での研究の普及に貢献したい。

9) テーマ：発生分化過程における細胞核ダイナミクス

世話人：深川竜郎（遺伝研）、佐渡 敬（遺伝研）

講演予定者：石川冬木、栗原靖之、多田 高、三瀬名丹

一つの生物個体において、細胞核に含まれているゲノムの一次情報はすべての細胞でほぼ共通であると考えられる。しかし、分化した細胞の核と受精直後の核では、その性質が異なっていることは、クローン動物作出の成功率の低さからも予想されている。エピジェネティックな情報の違いなどが近年示唆されているが、それに加えて初期発生期には細胞核構造のダイナミックな変化が起きている可能性もある。本ミニシンポジウムでは、初期発生期に核内でおこる様々な事象解明を目指した研究の発表を行い、その生物学的意義についての議論を深めたい。

(4) 国際研究集会（プログラム後述）

（9月19日午後1時～6時50分、21日午後2時20分～4時10分）

遺伝学会と同時に国際研究種集会“Gene Expression Control and Genome Evolution”を開催いたします。遺伝学会参加者は、この集会へも参加できますのでご参加ください。

4. 講演要旨締め切り：2007年7月3日（火）

5. 総会・受賞講演：岡山大学創立50周年記念館 9月20日（木）午後（15：15～17：30）

6. 懇親会：ロイヤルホテル 9月20日（木）夜（18：30～20：30）

7. 学生への旅費援助：

学生会員の講演を奨励するために、発表する学生会員に旅費の一部（交通費実費程度）を援助いたします。所属研究室や日本学術振興会などから旅費支給が受けられる方はご遠慮ください。なお、大会全期間（9月19日～21日）参加を条件とします。希望される方は、①氏名、②所属・学年、③所属住所、④旅費援助を必要とする理由、⑤メールアドレスをA4 1頁に記載し、指導教員のサイン・押印を貰った上で郵送にて下記の住所までお申し込み下さい。締め切りは7月3日(火)といたします。

送付先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会

TEL：055-981-6736 FAX：055-981-6736

注）申請書は必ず申請者一人につき1枚提出してください。研究室単位で申請された場合には、先頭に記載された方だけの申請となります

8. Best Paper 賞：

昨年の大会と同様の要領で、大会発表の一般演題の中から優れた研究発表10件程度を選んで表彰いたします。今回からミニシンポジウムに選ばれた一般講演も対象にします。

9. 一般講演申し込み：

大会ホームページ (<http://www.okayama-u.ac.jp/user/iden79/>) の申し込み画面から申し込んで頂くようになっております。一般講演の申し込みは1人1題を原則とします。（ミニシンポジウム等で講演を依頼された演題につきましては、この限りではありません。）

大会の一般講演・ワークショップで発表出来るのは日本遺伝学会会員のみです。2007年度までの遺伝学会費を、必ず事前にお納めください。発表される方で日本遺伝学会に入会されていない方は、先に入会手続きを行って下さい。入会手続きは、日本遺伝学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/nyukai.html>) にご案内いたしております。

演題申し込みの際には日本語要旨と英語要旨の両方を登録して頂きますよう、お願い申し上げます。またワークショップでの発表を希望される場合は、演題申し込み画面にて希望するテーマを1つご選択ください。

オンライン演題登録をした後は、確実に登録されているか、確認修正画面にて登録番号とパスワードを用いて必ずご確認ください。登録番号やパスワードを忘れてしまった場合のお問い合わせには応じられません。パスワードを忘れてしまった演題で修正が必要になった場合には、お手数ですが登録をやり直していただき、そのことを学会事務局 (iden79@cc.okayama-u.ac.jp) までお知らせいただけますようお願いいたします。講演要旨締め切りは7月3日(火)です。

10. 参 加 登 録：

大会ホームページ (<http://www.okayama-u.ac.jp/user/iden79/>) から参加申し込みを行い、参加受付番号を取得し、GGs Vol. 82 No. 2 に綴込みの払込票にて郵便局で参加費の払込みをお願いします。その際、通信欄に、

- ・参加受付番号
- ・参加費（一般会員・学生会員・一般非会員・学生非会員）と懇親会費（一般会員・学生会員・一般非会員・学生非会員）それぞれの金額と合計の金額
- ・国際研究集会参加希望の有無
- ・学生の方は、所属機関、学年、指導教員名をご記入下さい。

参加費

会員・非会員で参加費が異なります。

会員の方は2007年度までの遺伝学会費を必ず事前にお納め下さい。

現在非会員で、会員料金で参加登録されたい方は、先に入会手続きを行って下さい。

当日登録する学生非会員は学生証の提示をお願いします。提示のない場合は一般非会員扱いになります。

参加費

	事前登録 (～7月31日迄)	事後登録及び 当日登録 (8月1日以降)
一 般 会 員	7,000円	8,000円
学 生 会 員	3,000円 (但し演者は無料)	4,000円
一般非会員	9,000円	10,000円
学生非会員	3,000円	4,000円

懇親会費

	事前登録 (～7月31日迄)	事後登録及び 当日登録 (8月1日以降)
一 般 会 員	6,000円	7,000円
学 生 会 員	3,000円	4,000円
一般非会員	6,000円	7,000円
学生非会員	3,000円	4,000円

注意事項

1. 大会及び懇親会への参加者は、必ず参加登録を行ってください。参加章の無い方は、原則として会場への入場はできません。
2. 参加登録の完了には、Web 上での参加申し込み及び参加費の振込の両方が必要です。7月31日迄に参加登録された場合でも、8月1日以降に参加費を振込まれる場合は、事後登録の金額をお支払い下さい。
3. インターネットからの大会及び懇親会参加申し込みは、8月31日(木)をもって締め切らせていただきます。9月1日(金)以降の参加登録は、当日受付にてお願いします。
4. 8月31日までにオンライン参加登録ならびに会費のお支払いを済まされた方には、9月上旬に参加章と講演要旨集を郵送します。それ以外の参加者には大会当日にお渡しします。

払い込んだ方が特定できるように一人1枚ずつ別々の払込取扱票をお使いください。

1枚の払込取扱票を用いて研究室単位等でまとめて支払わないようお願いします。

国際研究集会への参加について

日本遺伝学会第79回大会と併行して、下記の国際研究集会が開催されます。

9/20(木)、21(金)に開催される特別講演以外のシンポジウム1～4のいずれかに参加を希望される方は、遺伝学会の参加費を払い込みの際に、通信欄に「国際研究集会参加」と記入して下さい。追加の参加費は不要です。

所定の振込用紙がない場合：郵便局に備え付けの振替用紙（青色）で、下記郵便振替口座までお振込みください。

<送金先>

口座番号	01380-1-60111
加入者名	日本遺伝学会第79回大会

当日登録

事前・事後登録期間に参加登録をされなかった方は、当日会場に参加登録をして下さい。参加章と講演要旨集は参加費と引き換えにお渡しします。

11. 日本遺伝学会第79回大会準備委員会

委 員 長：香川弘昭

プログラム委員長：上田 均

岡山大学大学院自然科学研究科（理学部生物学科）

TEL：086-251-7869 FAX：086-251-7876

12. 連 絡 先

事 務 局 長：富永 晃

岡山大学大学院自然科学研究科（理学部生物学科）

TEL：086-251-7864 FAX：086-251-7876

Mail：iden79@cc.okayama-u.ac.jp

市民公開講座「身近な生物とヒトを通してみる遺伝学の新しい潮流」

日 時： 2007年9月22日(土) 午後2時～5時

場 所： 岡山大学創立50周年記念館

世話人： 岡山大学自然科学研究科 鎌田 堯

1) 仁田坂英二(九州大学大学院理学研究院)

「タネのできない変化アサガオの種明かし」

変化アサガオと呼ばれているアサガオの形態形成変異体には不稔のものが多く、江戸時代の愛好家はこの変化アサガオを普通のアサガオから再現する方法を経験で習得していたようである。現在の遺伝学から見ると、まさにメンデルの法則を試しているに他ならないが、当時の人々は遺伝はおろか、植物の受粉の仕組みすら知らなかったようである。今回、この不思議な変化アサガオについて、遺伝学の目から謎解きをしてみたいと思う。

2) 伴野 豊(九州大学大学院農学研究院遺伝子資源開発研究センター)

「カイコの遺伝学とその将来」

カイコは安全な昆虫で、気軽に家庭でも飼育が可能である。肉眼レベルでの変異形質が多く、その大半は日本で発見されたもので世界的な財産となっている。卵の色、かたち、幼虫の体色、斑紋、体形、繭の色の変異、成虫の翅等の変異は多様で、研究や教育、養蚕業に貢献してきた。今では遺伝子工学的に改変したカイコやカイコの病気を利用した物質生産も試みられている。日本人に親しみのあるカイコの遺伝を中心にした話題を提供する。

3) 颯田葉子(総合研究大学院大学先導科学研究科)

「遺伝子—私たちが祖先から受け継いだ遺産」

地球上に生命が誕生して現代の私たち(人間)が誕生するまでには40億年近い歳月が流れてきた。この間の出来事は、今では想像することしかできないが、その痕跡は私たちの遺伝子に書き残されている。40億年の生命の歴史上で起きた様々な出来事が、私たちの遺伝子にどのような痕跡をとどめ、今に生きている我々にどのような影響を与えているかを紹介する。本講演を通じて、私たちの中に流れる『生命のつながり』を伝えたい。

戦略的創造研究推進事業 (CREST タイプ、さきがけタイプ)

平成19年度研究提案の募集開始

社会・経済の変革につながるイノベーションを誘起するシステムの一環として戦略的重点化した分野における基礎研究を推進し、今後の科学技術の発展や新産業の創出につながる革新的な新技術の創出を目指します。

☆平成19年度研究提案の募集では平成17年度、平成18年度、平成19年度発足研究領域のCRESTタイプ(チーム型研究)全研究領域、さきがけタイプ(個人型研究)全研究領域を対象として3月28日から募集を開始しました。

CREST全研究領域： 応募締切 平成19年5月22日(火) <正午>

さきがけ全研究領域： 応募締切 平成19年5月15日(火) <正午>

お問合わせ先

募集専用 E-mail: rp-info@jst.go.jp

募集専用 TEL: 048-226-5693

独立行政法人科学技術振興機構 戦略的創造事業本部

研究領域総合運営部・研究推進部

<http://www.jst.go.jp/kisoken/teian.html>

International Meeting
“Gene Expression Control and Genome Evolution”

September 19~21, 2007 (50th Memorial Hall, Okayama University, Okayama, Japan)

September 19 (Wed.)

13 : 00 ~ Opening remarks **Hiroaki Kagawa** (Okayama Univ., Japan)

Symposium 1; Gene expression 1 (Chair: H. Nakagoshi and H. Sawa)

Hitoshi Sawa (RIKEN CDB, Japan)

Regulation of asymmetric cell division by Wnt signaling in *C. elegans*

Jim McGhee (Univ. of Calgary, Canada)

Global Transcription Control in the *C. elegans* Intestine

Don Moerman (Univ. of British-Columbia, Canada)

Total expression in muscle and the formation of a sarcomere

Kenji Matsuno (Tokyo Univ. of Science, Japan)

Left-right asymmetry in *Drosophila*

Hideki Nakagoshi (Okayama Univ., Japan)

Functional opsin patterning for *Drosophila* color vision

Yasushi Hiromi (National Institute of Genetics, Japan)

Intra-axonal patterning: pattern formation within a nerve cell

15 : 00 ~ Symposium 2; Gene expression 2 (Chair: H. Ueda and J-h. Ahnn)

Hitoshi Ueda (Okayama Univ., Japan)

Regulation of developmental timing by transcription factors in *Drosophila*

Junho Lee (Seoul Natl. Univ., Korea)

Stimulation and stress control mechanisms in developmental integrity

Isao Katsura (National Inst. of Genetics and Sokendai, Japan)

How do worms change their behavior by smelling environments?

Joohong Ahnn (Hanyang Univ., Korea)

Studies on the calcium-binding proteins in *C. elegans*

Zhini Demirbag (Karadeniz Tech. Univ., Turkey)

Potential promoter regions and transcriptional analysis of immediate early, early and late genes of *Chilo iridescent* virus

17 : 00 ~ Symposium 3; Gene expression 3 (Chair: T. Takahashi and W. Sakamoto)

Taku Takahashi (Okayama Univ., Japan)

The uORF-mediated gene expression control in higher plants

Wataru Sakamoto (Okayama Univ., Japan)

Genetic dissection of leaf variegation in *Arabidopsis*

Takashi Araki (Kyoto Univ., Japan)

Genetic control of growth phase transition in higher plants

Sun Hui (Northeast Normal Univ., China)

Correlation between acetylation modification and *hsp* gene regulation in *D. melanogaster*.

Masami Horikoshi (Univ. of Tokyo, Japan)

Semi-conservative replication model of nucleosome

September 20 (Thr.)

Special Lecture I

13 : 00 ~ 13 : 05 Introductory Remarks **Hideo Shinagawa** (President of GSJ)

13 : 05 ~ 13 : 45 (Chair: Ikue Mori, Nagoya Univ., Japan)

Jonathan Hodgkin (Oxford Univ., UK)

Genetics and genomics of host-pathogen interaction in *C. elegans*

13 : 45 ~ 14 : 25 (Chair: Minoru Murata, Okayama Univ., Japan)

Steven Henikoff (Fred Hutchinson C. R. C., USA)

Epigenetic patterns generated by histone replacement

14 : 25 ~ 15 : 05 (Chair: Yuji Kohara, National Inst. of Genetics, Japan)

Robert Waterston (Washington Univ., USA)

Beyond the genome: Automated, continuous, cell-based analysis of embryonic gene expression in *C. elegans*

18 : 30 ~ 20 : 30 Party (Royal Hotel)

September 21 (Fri.)

Special Lecture II

13 : 30 ~ 14 : 10 (Chair: Taku Takahashi, Okayama Univ., Japan)

Nam-Hai Chua (Rockefeller Univ., USA)

Mechanisms of action of virus gene silencing suppressors

14 : 20 ~ Symposium 4; Genome and evolution

Chair: N. Takezaki (Kagawa Univ., Japan) and B. Venkatesh

Keiko Gengyo-Ando, Shohei Mitani (Tokyo Women's Medical Univ., Japan)

Functional genomics on membrane trafficking in *C. elegans*

Ian Hope (Univ. of Leeds, UK)

Systematic studies on *in situ* gene expressions

Daniel Boakye (Noguchi Memorial Inst., Univ. of Ghana, Ghana)

DNA barcode analysis of the M and S molecular forms of the *Anopheles gambiae* complex, vectors of lymphatic filariasis

Nobuhiko Asada (Okayama Univ. of Science, Japan)

Biodiversity of mtDNA in *D. melanogaster*

Byrappa Venkatesh (Inst. Mol. Cell Biol., Singapore, Singapore)

Analysis of the elephant shark (*C. milii*) genome

Yoshihito Niimura (Tokyo Medical & Dental Univ., Japan)

Evolutionary dynamics of olfactory receptor genes in vertebrates

Naruya Saitou (National Inst. of Genetics, Japan)

Evolutionary genomic analysis of primates and mammals

16 : 30 ~ Closing remarks **Don Moerman** (Univ. of British-Columbia, Canada)

◆日本遺伝学会 2007年度第1回幹事会報告◆

日 時： 2007年 4 月 2 日(土) 12:00-13:50

場 所： お茶の水女子大学理学部3号館ラウンジ

出席者： 品川日出夫(会長)，真木寿治，五條堀 孝，小林武彦，遠藤 隆，岩崎博史，山本博章，斎藤成也，
池村淑道，松浦悦子（以上幹事），鈴木真有美（事務局）

1 会長挨拶 (品川)

1.1 本日の協議事項について幹事会で予め検討して、評議員会での討議を時間的に有効に進行させるよう準備したい。

2 報告・協議事項

2.1 国内庶務幹事（真木）

- ・評議員会にて評議員の自己紹介，幹事の自己紹介と報告を行う。
- ・選考委員，調査委員，会計監査の選考結果報告。
- ・名簿における所属の統一（城石先生，倉田先生，角谷先生）。
- ・遺伝学会推薦の各種助成，賞申請の採択結果については82(2) GSI コミュニケーションズで紹介。

＜協議事項＞

- ・海外在住の学会会員の選挙権については今日まで整備が遅れていた。全国区のみが実現可能と思われるので実施に向けて環境を整備していく。今後、会則から細則までの英文化を進めていく。また、WEB 選挙の導入も検討していく（海外会員だけでなく）。
- ・奨励賞の英語名を決める（Young Investigator Award を提案）。

2.2 涉外庶務幹事（五條堀）

- ・国際遺伝学会誘致のために、昨年11月に Rudi Balling ベルリン大会委員長と会見を行ったことについて説明。
- ・なぜ日本で開催するのかの説明が必要である。
- ・IGF 規約改正点について説明。会則を現状にあった形に微修正する旨、J. Drake IGF 会長から提案があり、特に問題はないという判断で日本遺伝学会は承認という返事を出した。

2.3 会計幹事 (小林)

- ・2006年収支報告。
- ・雑誌販売についてメディイシュからの契約解除申し出と日本出版貿易との契約。
- ・今年度より学会事務所の家賃を遺伝研に支払う（年間20万程度）。
- ・特別事業基金の使い方について検討、特別事業の提案を求める。

2.4 編集幹事（遠藤）

- ・Instructions to Authors を変更した。
- ・GGS の投稿に中国，韓国，南米が増えてきた。
- ・GGS PRIZE 募集中（5 月末まで）。
- ・レタープレスといままで読書でやりとりしていた発注を契約書を交わすことに変更した。

2.5 企画集会幹事（岩崎）

- ・2009年度の大会予定地および大会委員長を評議員会で推薦してもらう。
- ・大会を学会がバックアップする体制を作ったほうが良い。
- ・BP 賞選考体制についての問題点。

2.6 将来計画幹事（山本）

- ・ 遺伝学談話会を東北地区で開催したい。
- ・ 学会の NPO 化について情報を集める。

2.7 特別幹事

幹事会の予定時間が残り少なくなったので、評議員会で報告・討議を行うこととした。

◆日本遺伝学会 2007年度第1回評議員会報告◆

日 時： 2007年4月2日（土）14：05-16：30

場 所： お茶の水女子大学理学部3号館会議室

出席者： 阿部訓也，原島 俊，平野博之，堀内 高，井上弘一，石浦正寛，香川弘昭，金澤 章，河野重行，
小林一三，倉田のり，村田 稔，仁田坂英二，篠原 彰，城石俊彦，鈴木 仁，田嶋文生，高畑尚之，
田村浩一郎，藤 博幸，山元大輔（以上評議員）
品川日出夫（会長），真木寿治，五條堀孝，小林武彦，遠藤 隆，岩崎博史，山本博章，斎藤成也，池
村淑道，松浦悦子（以上幹事），鈴木真有美（事務局）

1. 会長挨拶

2. 幹事紹介・評議員自己紹介

3. 報告・協議事項

3.1 国内庶務幹事（真木）

- ・選考委員・調査委員・会計監査の選考結果報告，選考委員（学会賞・奨励賞の選考），調査委員（学会推薦の助成金や賞の候補者の推薦）の業務を説明。
- ・各種助成，賞申請の採択結果についての報告。
- ・奨励賞の英文名については Young Investigator Award とすることを提案，承認された。

3.2 渉外庶務幹事（五條堀）

- ・国際遺伝学会誘致活動報告および IGF 規約改正点について説明，日本遺伝学会として改正に賛成した事を承認される。

3.3 会計幹事（小林）

- ・2006年収支報告。
- ・雑誌販売についてメディイシュからの契約解除申し出と日本出版貿易との契約。
- ・今年度より学会事務所の家賃を遺伝研に支払う（年間20万程度）。
- ・予備費の扱いをどうするか，特別事業基金にまわして，学会が過度の黒字を出していることを目立たないようにする（GGs への科研の助成金などもいつも採択されるとは限らない）。
- ・学会の監査体制は当面現状のままで行う。

3.4 編集幹事（遠藤）

- ・幹事会報告を参照。
- ・編集委員を強化する。

3.5 企画集会幹事（岩崎）

- ・BP 賞選考については聴衆の少ない演題についての対応，選考結果を年内に通知すること，学生とスタッフの選考を別にすることなどをBP賞選考委員会で検討してほしい。
- ・2009年度の大会候補地，大会委員長や開催地などを推薦してほしい。9月の大会前の役員会には具体的な候補をあげたい。

3.6 将来計画幹事（山本）

- ・遺伝学シリーズなどの出版は引き続き検討中。
- ・遺伝学談話会を東北地区で開催することを検討中。
- ・学会を NPO 化した場合のメリット，デメリットを調査中。
- ・他団体の動向を教えてほしい。

3.7 男女共同参画推進（松浦）

- ・学会として取り組んでもらいたいことがあれば幹事に連絡をしてほしい。
- ・岡山大会では親子休憩所を設置する予定。
- ・評議員あるいは周辺の研究室にいる若い女性科学者に，積極的に学会発表や種々の対外活動を行うように呼びかけをしてほしい。
- ・大会のミニシンポジウムなどの企画をする際に女性が発表する機会を多くするように検討してほしい。

3.8 広報担当（斎藤）

- ・HP を4月より一新する。
- ・英語版 HP の充実。

- ・GSJ コミュニケーションズの発行回数を3回とする。
- 3.9 遺伝学普及，教育（池村）
 - ・シニア世代の知恵を学校教育に活かす試みをしたい。
 - ・定年退職後の先生を学会退会からひきとめる。
 - ・遺伝学会大会での池内先生のミニシンポは遺伝学教育と関連があるので池村幹事が連絡をとって，企画への参加の可能性を相談する。
 - ・遺伝学人材バンクのようなものを作り，積極的にシニア人材を遺伝学の教育に活用する制度を考えていく。
- 3.10 第79回大会委員長（香川）
 - ・大会の事業計画，収支計画の説明。
 - ・国際研究集会開催費の援助を学会に依頼。 → 大会補助金(50万円+50万円)の範囲内で行ってもらう。
 - ・支出の計画に学会が負担する額が過大に見積もられているので，再度見積もりし，本部補助金の範囲内で自助努力で赤字を出さないようにする。
- 3.11 その他
 - ・定年退職後の先生方の会費減額については，学生会員の会費並またはそれ以下にするという案が出た。定年退職後も会員として留まってもらうことが望ましい。
 - ・国際生物学オリンピック大会の運営委員長に石和前会長が就任し，同オリンピックの次回大会を日本へ招致する活動をすることが決定した。
 - ・岡田典弘会員（東京工業大学）から東京工業大学に「アジア・アフリカ生物多様性バイオテクノロジー研究センター」設置に遺伝学会へ質問の依頼があった。検討した結果「ブラックアフリカ」などの文言の適切さについて注意を払うことを条件に賛同することになった。
 - ・日本学術会議報告は時間の関係で後日メールで連絡する。
 - ・研究者の倫理について学会として研究倫理委員会の設置する方向で検討していく。

次回評議員会 9/18（火） 岡山ロイヤルホテルにて開催の予定。

以上



国立遺伝学研究所 大学院説明会

・ ・ 発生，行動，進化，すべては遺伝子からはじまる ・ ・

国立遺伝学研究所では，遺伝学というキーワードのもと，分子遺伝学からバイオインフォマティクスまで，さまざまな分野の研究室が，独創的な研究を展開しています。当研究所では，総合研究大学院大学・遺伝学専攻を併設し，大学院生を受け入れています。学部卒で入学できる5年一貫制博士課程と修士卒相当で入学できる博士後期課程があります。

当研究所では，第一線で活躍できる研究者の育成を目的に，密度の濃い少人数教育を実施しています。また，研究室間の交流も活発です。大学院説明会に参加し，それぞれの研究室を見学し，素晴らしい研究環境を実際に目でみて確認してください。（ホームページ：<http://www.nig.ac.jp>）

★★★★★ 大学院説明会のお知らせ ★★★★★

日 時： 2007年6月9日（土）13：30～16：30
 場 所： 国立遺伝学研究所（JR三島駅南口からバスまたはタクシーで約15分）
 内 容： 展示パネルを用いた各研究室の紹介，教員との懇談，各研究室の見学
 申し込み： 当日参加も歓迎しますが，事前に連絡いただければ，研究所および受験に関する詳しい資料を説明会開始時にお渡しできます。その場合，電子メール，はがき，またはFAXで，所属と氏名を以下までお知らせ下さい。

〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所総務課総務係（大学院担当）

TEL：055-981-6720 FAX：055-981-6715 電子メール：info-soken@lab.nig.ac.jp

◆◆◆◆◆ 会長からのメッセージ ◆◆◆◆◆

品 川 日出夫

会長としての挨拶はGSJコミュニケーションの昨年の最終号に載っていますので、あまり追加することはありませんが日頃考えていることを少し述べさせていただきます。

先ず大学の研究環境や研究費の格差の拡大が目に見え、大型研究費を貰う一部の研究者と最小限の研究費さえなくて、実質的には研究ができない状態の多数の研究者の存在は日本の科学の健全な発展を阻害しています。これは重点的研究資金の配分という方針で、集中的に大型研究費の投入が行われ、富めるものは増々富み、貧民は再起出来ない状況になってきています。日本では旧帝大とそれに準ずるいくつかの大学と医科大、医学部を除くと、まともな研究が行える場所は希有です。アメリカにおいては、名も知られていない多くの地方大学でも、世界的な研究者が活躍して、すそ野の広さが



わが国と桁違いです。本当のプレイクスルーは時代の流行に捕われない自由な発想に基づく地に足をついた多くの研究者をサポートする中から生まれてくるものと信じています。特に Global COE なるものは、十分研究費や研究設備のあるところへ更に多額の資金を投入する良くない制度である。COE を通すため、有名教授の引き抜きが横行している現状は嘆かわしいことである。今の日本の研究の重点分野として手厚い資金が投入されている分野の多くは、世界の流行を追っている分野で、全く独自性がない。トップダウンが多すぎて、ボトムアップの比重が減っている。現実的にはゴマメの歯ぎしりをしていても仕方がないので、悪環境の中でも、頭を使って金のかからない研究を工夫して、しぶとく生き延びることを考えましょう。恵まれた研究環境にいる方々は、ほんの僅かな幸運で同僚と運命が分けられたことを自覚し友情の手を差し伸べて助け合っていこうではありませんか。遺伝学会が研究者の共同体として助け合う場となれたら幸いです。

この際遺伝学会の重要な委員会を会員の皆様に解説させて頂くのも有意義なことと思います。先ず幹事会は内閣の様なもので、会員の選挙で選ばれた会長が指名（お願い）して、評議委員会による承認を受けて幹事が正式に決まり、会長を助けて学会の運営におこなう、執行機関です。評議員会は学会の多くの重要事項について討議し議決します。会則や予算、決算は評議員会で予め討議され総会での議決、承認が必要ですが、その他の多くの案件は評議員会で決められます。幹事はそれぞれ役割分担があり、会長や幹事会と相談しながら、学会の諸活動において、中心的役割を果たします。評議員会の開催に先だって、幹事会を開くのも、評議員会での議題について、有意義な討議が出来るように予め資料を準備し、問題点を明らかにして、評議員会の議論を深められる様準備をすることも重要な任務です。

選考委員は学会賞である木原賞と若手に対する奨励賞の受賞者の選考を行います。評議員の投票によって委員は評議員の中からと評議員外から選ばれます。

調査委員も評議員によって選ばれ、各種助成金や賞等の学会推薦者の選考をおこないます。本学会推薦者から毎年多数の研究助成金を受けられる方が出ていますので、奮って学会推薦にご応募下さい。

○自己紹介

2005年3月に大阪大学を定年退職し、その後招聘教授として微生物病研究所で引き続き小さなグループでライフワークである3R（Replication, Recombination & Repair）の研究をさせていただきました。この4月より大学を出て茨木市彩都のバイオ特区にある大学等の研究者のネットワークに基づいたバイオベンチャー企業であるバイオアカデミア(株)に移りました。この会社は1年半ほど前に私と大学の友人を中心に設立され、大学等の研究室の冷蔵庫やフリーザーで眠っている、余剰の抗体やハイブリドーマ、レコンビナントタンパク質発現

系等を生かして研究用試薬やアッセイキットを開発し、世界のマーケットに出します。民間のバイオリソースのようなものですが、国の補助なしで経済的に自立しなければなりませんので大変です。現在7人の社員が頑張っています。大阪にお越しの折りは是非おより下さい。遺伝学会では幹事として12年間務めたので、役員としては定年退職を期待していたのですが、会長に選ばれたからには皆様のご協力を得て、会長職と会社の経営を両立させたいと考えております。遺伝学会長が2代にわたって、バイオベンチャー企業の社長になったというのも、時代の流れを象徴している様な気がします。

品川日出夫
日本遺伝学会会長
大阪大学名誉教授
バイオアカデミア株式会社 代表取締役社長
〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7-7-18
Tel/Fax: 072-643-4660
Mail: shinah@bioacademia.co.jp
<http://www.bioacademia.co.jp>

各 幹 事 の 報 告 と 自 己 紹 介

★国内庶務幹事 真木寿治

○幹事会・評議員会での報告

選考委員、調査委員、会計監査の選考結果についての報告。

各種助成金・賞申請の採択結果についての報告。

奨励賞の英文名について Young Investigator Awards とすることが承認された。

○自己紹介

所属：奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科

新会長のもと、新しい幹事会メンバーは遺伝学会の重鎮と若手がバランス良く組まれています。その中間の年代で国内庶務幹事を務めることになりました。会長の手足となってお役に立ちたいと思っています。

★渉外庶務幹事 五條堀孝

○幹事会、評議員会での報告

・国際遺伝学会連合（IGF）の規定改訂についての報告

・国際遺伝学会の日本誘致に向けての状況報告

○自己紹介

国立遺伝学研究所 副所長・教授

★会計幹事 小林武彦

○幹事会、評議員会での報告

・2006年度の会計報告。会計監査法人による監査の必要性の有無についての意見交換

・学会誌の販売委託先をメディイシュから日本貿易出版に変更（昨年末）

○自己紹介

昨年末に基礎生物学研究所から国立遺伝学研究所に移動して参りました。研究室は遺伝学会事務室と同じ建物の同じ階にあり、事務局の鈴木さんに助けてもらい何とか重責を全うしたいと思います。研究はリボソームRNA 遺伝子と核小体の新機能について、よろしくお願いいたします。

★Genes and Genetic Systems (GGS) 編集委員長（編集幹事） 遠藤 隆

○幹事会，評議員会での報告

- ・編集委員会：2006年9月24日（日）開催
- ・GGS 論文発行状況

巻－号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other
81-1	8	0	5	3	0
81-2	8	0	6	2	0
81-3	8	1	5	2	0
81-4	9	1	6	2	0
81-5	9	0	5	4	0
81-6	4	0	4	0	1*
82-1	9	9	0	0	0

* 大会要旨

- ・GGS Prize：2006年度は該当論文無し．2007年度は，81巻6号と82巻1号に広告を掲載，および，全編集委員・顧問に案内をメールする予定．
- ・J-STAGE 投稿審査システム：10月16日，J-STAGE にヒアリングシート提出．11月28日，科学技術振興機構の細田氏とアトラスの吉田氏と最初に打ち合わせ．2007年の早い時期に，デモンストレーション．2007年夏までに完成，試行．2007年総会で報告，運用開始（年内は旧システムも有効にする）．
- ・科学研究費（研究成果公開促進費）の学術定期行物の競争入札：平成19年度より学会誌の直接出版費に関して，原則，競争入札となる．平成19年度は，採択されても，すでに82巻（2007年）の編集・発行が進んでいるので，競争入札の猶予を求める．

○自己紹介

今年度も GGS 編集委員長を務めます京都大学農学研究科の遠藤隆です．GGS の編集に何とか慣れてきましたが，原稿の編集員や印刷所とのやり取りには気を使います．現在，JST の支援を受けて投稿・審査を Web 上で行えるシステムを導入する準備を進めております．このシステムには今年中に稼動する予定で，そうなれば投稿者，編集委員，そして編集委員長も少し手間が省けるのではないかと期待しております．学会誌の出版を取り巻く状況は厳しいものがありますが，少しずつでもよりよい紙面していきたいと思っております．内容の向上は，学会の皆様の積極的な投稿に大きく依存しておりますので，将来の発展が期待できる研究論文の投稿をお待ちいたしております．また，一昨年から始めました GGS Prize にも編集員・編集顧問を通して積極的なご参加を期待しております．今年度も，学会員の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます．

★企画集会幹事 岩崎博史

○幹事会，評議員会での報告

- ・2009年の大会について，現在幹事評議会の委員の意見を参考に候補地を選定している．開催地は，順番に持ち回るという今までの例に捕らわれず，適任者を選考することを優先したい．2007年9月を目処に，決定したいので，幹事・評議員の意見を求む．
- ・BP 賞の選考法の問題点を収集し，問題点を改善していく．

○自己紹介

所属：横浜市立大学国際総合科学研究科生体超分子科学専攻

大学院修士課程のときに遺伝学会会員になりました．昨年は学務と重なり参加できませんでしたが，それ以外は留学の時を除いてすべての大会に参加しております．これから2年間企画集会幹事として，大会を盛り上げていきたいと思いますが，大会が成功するかどうかは，多数の会員参加者があるということが第一前提ですので，是非是非，皆さまの積極的な御参加をお待ちしております．よろしく御願います．

★将来計画幹事 山本博章

○幹事会，評議員会での報告

- ・社会的貢献をも含めた遺伝学研究的の現在と展望を議論した模索する目的で，高畑尚之将来計画幹事の折

に始まった遺伝学談話会は現在7回を数えるまでになった。今後もこの理念を継承すべく、各地区でもこの活動を推進する。

- ・本会の将来のあり方を検討するために、法人化等、組織機構についても検討を始める。これらに関して会員の方々のご意見、ご提案をお願いいたします。

○自己紹介

所属：東北大学大学院生命科学研究科 准教授

相変わらず色素細胞の機能発現を発生遺伝学的に解析しています。最近視聴覚に必須であるこの細胞の機能発現とその機構の進化に興味を持っています。不思議なことに、この機能には色素産生を必須とはしません。しかしながら、色素産生には意味がないわけではなく、ストレスの緩和に深くかかわっているのではないかと思っています。

★男女共同参画推進担当幹事 松浦悦子

○幹事会、評議員会での報告

- ・男女共同参画推進を担当する特別幹事として、シンポジウムなどでの若手の女性研究者や学生の発表の機会についての配慮を要請した。これに対して、後日、第79回大会の香川大会準備委員長より、国際研究集会、ミニシンポジウムのオーガナイザーに対して女性の講演者について配慮を依頼した旨の報告を受けた。
- ・今後の活動へのご意見、ご提案などがあれば、いつでも松浦までお知らせください。

○自己紹介

遺伝学会における女性の割合は、現在、一般会員では14%、学生会員では26%です。この特別幹事の役割をいただいたことを、若い女性研究者や学生をどのように励ますかについて、あらためて考える機会とできればと思います。女性会員のひとりであること、女子大学で常日頃若い学生に接していること、大学の「女性リーダー育成プログラム」に関わっていること、などが役に立てばよいのですが、皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

★遺伝学普及・教育担当幹事 池村淑道

○幹事会、評議員会での報告

- ・遺伝学普及・教育を担当する特別幹事として、「遺伝学やゲノム科学の学部教育にシニア世代の高度な専門知識を活かすシステム作り」に関する現状を報告した。これに対して、第79回大会の香川大会準備委員長より、ミニシンポジウム「高校“生物”で遺伝をどう教えるか」（池内達郎、向井康比己の両氏がオーガナイザー）とも関係するのではとの指摘があった。
- ・後日、池内達郎会員と連絡を取り、上記ミニシンポジウムが採択になった際には、高校の生物の教育を含めて、シニア世代の専門知識を教育に活用する課題について、話題提供の可能性を考慮することとした。
- ・今後のこれらの活動へのご意見、ご提案などがあれば、池村までお知らせください。

○自己紹介

長浜バイオ大で、生命情報科学の学部・大学院教育と研究に携っています。ゲノムアノテーションのような計算機やデータベースを活用した実習も担当していますが、そこへシニア世代の専門知識を導入することの必要性を感じております。その理由や、活動開始への取り組みをGSJコミュニケーションズの「21世紀の遺伝学(V) pp. 17-18」へ特別寄稿しております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

★広報担当幹事 斎藤成也

○幹事会、評議員会での報告

- ・広報担当幹事として、主に学会のHPとGSJコミュニケーションズの編集を担当する。
- ・日本遺伝学会のHP(www.soc.nii.ac.jp/gsj3/)を5月中旬に改訂する予定である。
- ・学会HPの英語版の充実をはかりたい。
- ・今年度からGSJコミュニケーションズの発行回数を年3回(GGSの偶数号発行時)とした。

○自己紹介

石和前会長のもとで会計幹事をつとめていましたが、品川現会長から、広報担当幹事を引き受けてほしいとのことで、お引き受けしました。GSJコミュニケーションズは、昨年までのきわめて充実した内容を維持することはとうていできず、発行を半減していただきましたが、一方でwebホームページやメールでの会員への御

連絡を充実して補完してゆこうと考えています。個人的には、以前から従来の学会というシステムそのものが現在の研究者の社会全体になじまないものになりつつあると考えています。たとえば、総会の機能の大部分はウェブやメールのシステムで置き換えることができると思います。学会のグローバル化という問題も、英語を母国語としない私達の宿命であり目標ですが、従来の学会大会風景が一変する可能性を秘めています。21世紀の新しい研究者社会像を模索する時期だと考えています。

◆各種助成金・賞 申請結果◆

ノバルティス科学振興財団

件 名： 研究集会助成
研究集会名： 第5回飼料作物および芝草の分子育種に関する国際シンポジウム
入選者氏名： 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 山田敏彦
贈 呈 額： 40万円

東レ科学振興財団

件 名： 第47回（平成18年度）東レ科学技術研究助成
研究 題 目： テロメア機能による染色体末端恒常性維持の分子基盤
代表研究者： 千葉大学理学部 教授 松浦 彰
助 成 金 額： 15,000,000円

以上

◆会 員 異 動◆

新入会・再入会

上 田 均	700-8530	岡山県岡山市津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科
本 多 秀次郎		(連絡先自宅のため不掲載)
藤 井 洋	861-3193	熊本県上益城郡嘉島町鯉1880 熊本回生会病院

連 絡 先 変 更

川 浦 香奈子	244-0813	横浜市戸塚区舞岡町641-12 横浜市立大学木原生物学研究所
渡 邊 豊	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 理化学研究所 筑波研究所 バイオリソースセンター 動物変異動態解析技術開発チーム
小 林 武 彦	411-8540	三島市谷田1111 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 細胞遺伝研究部門
齋 藤 茂	020-8551	岩手県盛岡市上田4丁目3-5 岩手大学工学部 福祉システム工学科 新貝研究室
市 川 洋 子	727-0023	広島県庄原市七塚町562 県立広島大学生命環境学部環境科学科
品 川 日出夫	567-0085	茨木市彩都あさぎ7-7-18 彩都バイオヒルズセンター内 バイオアカデミア株式会社
吉 田 健太郎	024-0003	岩手県北上市成田22地割174-4 岩手生物工学研究センター
工 樂 樹 洋		Laboratory for Zoology and Evolutionary Biology, Department of Biology, University of Konstanz, Universitaetsstrasse 10, Konstanz, D-78457, GERMANY

退 会

氷見英子, 島田多喜子, 武藤あきら, 秦野慎矢, 農 大輔, 北村朋子, 福岡秀雄, 佐野 浩, 佐々木義之, 金子真美, 小林克己, 荻原秀明, 草野和則, 立川さやか, 富谷朗子, 広吉寿樹, JOO-MEE KIM, 井上雅好, 武智正樹, 石津純一, 関谷國男, 片倉晴雄, 蒲生卓磨, 茅野 博, 上原拓也, 丹羽太貫, 増田明德, 小熊 譲, 安井 秀, 大森治夫, 森明充興, 坂本昭夫, 上野美華子, 鈴木晴夫, 矢部尚登, 山口勝秀, 石橋 剛, 吉田治男, 春日久男, 小池英明, 岩永亜紀子, 杉本大樹, 谷澤欣則, 山下正博, 深松陽介, 市川定夫, 丹羽康夫, 横峯孝昭, 山口久美子, 安田成一, 本多麻衣, 菅谷 茂, 中村洋路, 小倉 淳, 小柳(小野)香奈子, 高木千明, 堀田耕司, 佐野晶子, 山田利昭, 西あかね, 設楽浩志, 矢嶋信浩, 坂井隆浩, 森竹利奈, 石橋 徹, 青木一晃, 福島敦史, 堀 哲也, 西尾信哉, 有光なぎさ, 大槻 誠, 渡部 聖, 原雄一郎, 石川優一, 西尾奈々, 蟹江 聡, 飯野雄一, 森島啓子, 齋藤佳言, 森山陽介, 岡田 悟, 深町昌司, Thawalama Gamage Dayananda, 太田信哉, 福崎 麗, 今西 規, 山口貴大, 谷村雅子, 藤原晴彦, 大谷浩己, 増澤義和, 松野健治, 今井高志, 壺井基夫, 村上重幸, 本庶 佑, 佐野幸恵, 伊藤幸博, 山元皓二, Jaudal, Mauren, Cali. Jaudaru, 北海道立中央農業試験場図書室, 大阪医科大学図書館, 聖マリアンナ医科大学医学情報センター図書情報課, 東京女子医科大学図書館, 朝日大学図書館, 麻布大学附属学術情報センター, 防衛医科大学校図書館

休 会

児玉英志

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 77	No. 2, 3, 4	(2007)
統計数理	Vol. 54	No. 2	(2006)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 36	No. 6	(2006)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 37	No. 1	(2007)
Chinese Journal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 12	No. 6	(2006)
Chinese Journal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 13	No. 1	(2007)
Journal of Applied Genetics	Vol. 47	No. 4	(2006)
PROCEEDING OF THE INDIAN NATIONAL SCIENCE ACADEMY	Vol. 71	No. 3, 4	(2005)
JOURNAL OF CHINA-JAPAN FRIENDSHIP HOSPITAL	Vol. 20	No. 6	(2006)
JOURNAL OF CHINA-JAPAN FRIENDSHIP HOSPITAL	Vol. 21	No. 1	(2007)
ACTA SOCIETATIS BOTANICORUM POLONIAE	Vol. 75	No. 4	(2006)
人と自然	Vol. 17		(2007)

(鈴木真有美)

**バイオインダストリー協会賞
平成19年度授賞候補者推薦募集**

(財) バイオインダストリー協会

財団法人バイオインダストリー協会では、協会設立20周年を記念して、平成2年度に創設された有馬啓記念バイオインダストリー協会賞の趣旨を継承発展させ、本年度からバイオインダストリー協会賞を設立しました。本賞はバイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野における顕著な業績を顕彰します。本賞の授賞候補者の推薦を広く募ります。

募 集 要 項

対 象 分 野： バイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野における研究・技術開発および産業化推進活動で、バイオインダストリーの健全な発展に大きな貢献をなし、または、今後の発展に大きな貢献をなすと期待される業績をあげた個人、小人数のグループまたは組織とする。対象とする分野は、自然科学、人文科学および社会科学とし、生命倫理、リスクアセスメント等も含む。また、対象業績には、国民理解、人材育成、標準化、生物資源アクセス推進、特許制度改革、国際共同研究推進などを含む。

対 象 者 の 資 格： 年齢、所属を問わない。

賞状および賞金： 受賞者（1グループ・組織は1対象者とみなす）に対し、当協会会長名の賞状および副賞100万円を授与する。2件の場合は、副賞を等分する。

募 集 方 法： 毎年1回、候補者の募集を広く行う。自薦、他薦を問わない。

推 薦 締 切 り： 平成19年6月8日(金) (消印有効)

推 薦 方 法： 推薦用紙を下記ホームページよりダウンロードし、所定事項をご記入のうえ、下記にご郵送下さい。後ほど、候補者には、選考委員会の規定に従い、業績のレジメ等を書いていただきます。

問 合 せ 先： 〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-26-9 グランデビル8F

(財) バイオインダストリー協会

バイオインダストリー協会賞事務局 土橋・矢田

TEL 03-5541-2731 E-mail bio_prize@jba.or.jp

<http://www.jba.or.jp/>

Genes & Genetic Systems 第82巻2号 (付録) 2007年5月17日発行 非売品 発行者 品川日出夫・斎藤 成也 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800 発行所 日 本 遺 伝 学 会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内	学 会 事 務 取 扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 日 本 遺 伝 学 会 http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html (電話・FAX 055-981-6736) (振替口座・00110-7-183404) 加入者名・日本遺伝学会 国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えします。
--	--

この冊子に記載してある個人情報については、慎重に取り扱っていただきますようお願いいたします。